



幼児における描畫の發達

東京家政大學教授 山下俊郎

一

幼児教育において、幼児に與えらるべき楽しい經驗としての繪畫の問題を考えるに當つて、一番大事な問題は幼児の繪をよく理解することである。幼児の繪の見方については、以前に本誌上で久保貞次郎氏が數回述べられたことがある。

幼児の繪の見方について一番大切なことは、大人から見た大人流の勝手な解釋をすてて、繪を描くことそれ自體が幼児の生活のそのままな表現であつて、その繪にあらわされてゐる幼児の生活を充分に理解するということである。ところで幼児が思い切り充分に自分のすべての生活をぶちまけて、心から繪畫的表現を樂しむことが出来るためには、幼児にとつて一番やさしい表現の道具と材料とが與えられることが大切である。一番やさしい道具と材料というのは、言葉をかえ

て言えば、幼児が充分にこなし得る道具と材料をいうことである。充分にこなし得るためには、道具と材料とをこなし得るだけの運動の力の發達がその前提とされる。充分にこなし得る道具と材料とでなければ、幼児が思う存分に繪をかくことが出来ないからである。

幼児の時期は運動の發達から言つて、大まかな大筋肉の運動の發達する時期である。一體に幼児の運動發達においては、まず大きい運動、すなわち大筋肉をつかうような、そして肩や腕や手首などをつかう運動が發達してから、そののちに手先きにくまかな巧みさやこなしが發達するのが、原則である。だから、大まかな大筋肉の運動の發達する時期には、手先きのこまかな巧みさやこなしはまだ發達しないのである。

このことから考えると、幼児が繪を描くときにこなし得る道具と材料がおのずから制限されてくる。古く使われていた

色鉛筆や、細いクレヨンといったようなものは、それをあつかうのに、相當の程度の手先きの巧みさを必要とする。だから幼児にはあまり向かない。また、あまり小さい紙にコチャ／＼と描くということもなかなか手先きの巧みさを要するこのようなことを考えると、幼児がらくに扱えてしかもはつきりと思う存分に描けるという点において、鉛筆やクレヨンや小さい紙は、幼児に充分にこなし得る材料や道具であるとはいえない。このような考え方から、大きい紙を畫架にはりつけて、ポスターカラーのような繪具を、大きいブラシ（繪具筆）思い切りにつけて描かせるというやり方が幼児に一番適しているということになるのである。保育要領に、大きい紙に、ブラシで思い切り描かせるということが提唱してあるのはこのような根據にもとづくものである。

ところで、このような道具と材料を幼児に與えたとき、幼児がその年齢に應じ、發達に應じて、どのようなこなし方をするとということについては、わたし達はまだ充分な研究をわたくし達の日本の幼児について試みていない。そこでわたくしはアメリカの幼児について長年かかつて研究されたゲゼルの研究のうち、いまわたくし達が問題として見るような點についての資料をこの稿で紹介して見たいと思う。

二一

ゲゼルの幼児の描畫の發達の觀察は一才半からはじまつて二才、二才半、三才、四才、五才、六才というふうに、觀察

されている。年齢を追つて年齢段階ごとにその結果を紹介して見よう。

一歳半

- 1 腕全體をつかつて描く
- 2 一枚目の紙にほんの數本しか描かない、弧の形に線をひくことが多い
- 3 一方の手からもう一方の手へとブラシを持ちかえる
- 4 たつた一色だけで満足する

二歳

- 1 一才半のころにくらべて手首の運動がよく出来る
- 2 ブラシを持つ手をもちかえることをしなくなる（ただし兩手に一本ずつブラシを持つて描くことはよくある）
- 3 色におかまいなしに、紙に色をこすりつける。數色をまことに威勢よく塗りかさねて、にがらせてしまう。
- 4 一色だけで描くときに、大分いろいろの線をかくようになる。
- 5 出来あがつた繪よりもそれを描いている過程が子どもにとつて大切である。
- 6 描いていても氣が散りやすい、自分の手の運動を氣をつけて見ていないことがある。
- 7 ほかの子どもと一緒に紙に描くことをよろこぶ。

二歳半

- 1 垂直の線や水平の線、點や圓形などというふうにいろいろの線を描いて見る。

2 はじめはきちんと描いているが、すぐに變な形になつてしまうことが多い。

3 よく脱線することがある。机に描いたり、晝架や床や自分の手やほかの子どもに描いたりする。

4 同じような繪を何枚も何枚も描くことがある。

三歳

1 いろいろの線を描くようになり、手の運動もリズムカ
ルになる。

2 模様を描きはじめる。

3 紙全體を一色にぬりつぶしたり、いろんないろをあちこちと一かたまりずつ塗つて紙全體をぬりつぶすことが多し。

4 描いてしまつたあとで「これ〇〇よ」といつて豫告することもある。しかし大人が見てもそれが何かほとんどわからないことが多い。

5 年上の上手な子どもの描くのを見たり、ほかに上手な子どもの描くのを見ていて、それに刺戟されて描くことがある。

6 出来上つた繪に喜びと誇りを持つている。「ぼくの描いたのを見て御覽」とよくいう。

7 一生懸命になつて、きちんと描くようになる。

8 ほかの子どもと同じ紙に描くことをいやがるようになる。

四歳

1 大人と同じ持ち方でブラシを持つ。

2 長い時間のあいだ一つの繪に没頭してきちんと描くようになる。

3 描いている間に次第にいろんな想像を活潑にめぐらしている。

4 描きながら繪の説明をするのでおしやべりが多くなる。

5 いろんな模様や出たらめな字を描くようになる。

6 あまり細かくは描かないがいろんな品物を描くようになる。

7 大小や空間的關係にはあまり頓著しない——子どもにとつて一番大切な部分が一番大きく描かれる。

8 文字や人間などが横向きや逆さに描かれる。

9 自分で描いた輪廓のなかに色を塗ることを喜ぶ、大人が見るともとの形が何か分らなくなるような時でもおかまいなしにぬりつぶすことが多い。

10 自分の繪の自己批判をはじめる。

11 描いた繪は子どもにとつて個人的な値うちがある——子どもはそれを家に持つて歸りたがるのである。

五歳

1 あまりこまかではないが、一つずつのものの輪廓畫をよく描く。

2 家の兩側に表口や裏口のドアを描く、そのドアの上と下にちやんとその刻み目を描く。

- 3 自分の描いた繪が「變だ」ということを認識する。
- 4 どつちかの手を使うという利き手が大體きまる。
- 六歳
- 1 鉛筆の持ち方はまだブキツチョである。
- 2 繪を描いたり、押し繪をしたり、色を塗つたりすることを五才児よりもすつとよるこぶ。しかし、お手本に似ていなくてもちつともかまわないでいる。
- 3 輪廓の中に色を塗ることに夢中になつて、ながいことやつてゐる。
- 4 色をクレヨンで塗るときは、その持ち方はまだブキツチョである。
- 5 塗るときに、身體をあちこちと動かしたり、頭をかしかけたり、いろいろの姿勢をしている。立つたり、机にもたれたり、頭を手の上にもたせたりする。

三

ゲゼルの行つたような觀察は、幼稚園でも保育所でも、熱心に氣をつけていれば、保育者の誰でもが出来ることである。たゞ、それを丹念に記録すること、ほかの心理的發達との關係を考への中に入れながら、年齢段階にしたがつてきちんと整理することが大切である。このようにして得られた發達段階にしたがつてわたくし達は、幼児の繪畫をその發達の基本的な線に沿つて、順調にそしてすこやかにのびして行くようにしたいと思う。何よりも大切なことは、わたくし達が、

わたくし達の眼の前にいる幼児を、わたくし達の眼で觀察することである。

(以上の中でゲゼルの研究の紹介の部分で、四才までの分は Infant and child in the culture of today, 1943. 五才六才の分は The child from five to ten, 1946. によつた)

新刊紹介

オハイオ州立大學附屬學校編
周郷 博譯

「子供たちはどの

ように發達するか」

東京都中央区銀座一の五 新社團法人新教育協會發行
定價一七〇圓 一六〇頁

推薦

子供を知るための寶典——東京大學教授 海後宗臣
子供を育てるのには、成長する子供がどのような身心の特質を示すかをよく理解していなければならぬ。この書はアメリカの子供研究の結論を集成して骨組みとし、それにオハイオ大學の附屬の子供の研究を肉付けしてできたものである。子供が三才から十八才までの間にどうなるのか、實にわかりやすくまとめたのである。この書を日本の父母や教師が身近かにもつていて必要なところを開くと子供の導き方がすぐわかる。私はこの書を「子供を知るための簡易な寶典」として推薦する。